支部情報

下松支部

和気藹々で高まる団結力！

笑いと花と童謡のまち下松市は、東西十二・七km、南北二十・六kmというコンパクトで海あり山ありの豊かな自然と工業生産のまちである。

新年度、新たなメンバーを二名迎え、本支部ならではの小回りのきく利点を生かして八校の校長で支部運営をしているところである。

本支部では、「地域に開かれた信頼される学校づくり」の取組を通して、下松教育の基本目標「心豊かに生きる力を育む」の具現化に努めている。

各月に実施している定例会では、会場校の校長による学校経営説明や、共通の課題である学力向上や人材育成、豊かな心と健やかな体を育む具体的な教育活動等の情報交換を行っている。

本市では、豊かな心を育むあいさつ運動の推進として、「あいさつで　笑顔キラめく　星のまち」というキャッチフレーズのもと、学校・家庭・地域が一体となったあいさつ運動を全市的に取り組んでいる。本支部でも各学校の特徴を生かしたあいさつ運動の取組を紹介し、各学校運営に生かしている。

また、昨年度まで取り組んできた「社会形成能力」を育む教育の推進に迫るための「キャリア教育」についても、全連小山口大会分科会につながる研修を継続しているところである。

さて、本支部の喫緊の課題は、平成二十八年度に導入予定のコミュニティ・スクールの準備である。コミュニティ・スクールコンダクターを招聘しての研修や各学校が立ち上げに向けて校長がどのようなかけづくりをしているか、組織をどう再編成していくかなど各学校の取組も共有し、下松市そして各学校ならではのコミュニティ・スクールを立ち上げていきたいところである。

今後も、常に八校の情報と課題を共有して、和気藹々とした雰囲気だからこその強い団結力・組織力・機動力を発揮して、実りのある支部運営をしていきたい。

（久保小学校　大田典子）

新校長の声

幸せ運ぶクローバー

防府市立西浦小学校長　林　英和

新学期早々、教室から頻繁にエスケープする男の子がいないとの連絡を受け、校内を捜していたところ、校庭の片隅に座り込んでいる男の子を発見した。近づいてみると、片手に数本の萎れたクローバーを握りしめていた。

「四つ葉のクローバーって、見つけられないんだよね」と声をかけると、私の前にさっと片手を差し出し、「これ、みんな四つ葉だよ」と答えてくれた。「すごいね～、四つ葉って、みんなに幸せを運んでくれるんだよ」と話すと、即座に「じゃあ、家族とクラスのみんなの分もとらなくちゃ」といって再び立ち上がり、黙々と探し始めたのである。私も当初の連れ戻そうとする思いを捨て、その心根の優しい男の子の言葉と勢いに乗って、一緒に探し始めていた。男の子は、この日の出来事をきっかけに、その後教室から抜け出すことはなくなった。

江戸時代にオランダからガラスの器の緩衝材として詰められていた草から発芽したものがクローバーである。

これから私は、子どもたちと一緒に幸せを探し、心をやさしく包み込む「四つ葉のクローバーのような校長」でありたいと願っている。

四つの幸せを力に変えて

山陽小野田市立高泊小学校長　今本　美智子

「教頭先生、あっ、間違った。校長先生、今月の詩を暗唱しに来ました。」

年度当初、よく耳にしたフレーズだ。かくいう私も、職員室で「教頭先生。」と言われると、間髪入れずに、「はい。」と答えていた。

私は、今年度、同校昇任という形で、校長に着任した。育友会総会の際に、校長として四つの幸せを実感していると話した。一つ目は、素直で明るい子どもたちとまた一緒に過ごせる幸せ。二つ目は、「チーム高泊」を合い言葉に、何にでも前向きに取り組む先生方と一緒に仕事ができる幸せ。三つ目は、育友会執行部の方々を始めとした保護者の方々と一緒に活動できる幸せ。四つ目は、「子どもは地域の宝」と全面的に学校をバックアップしてくださる地域の方々と一緒にスクラムが組める幸せ、である。

しかし、教頭としての二年間で、高泊小学校にも大なり小なり様々な課題があることも把握している。

今後、これらの課題にどう対処していくかが問題である。日々の次から次へと入ってくる仕事と、課題解決に向けた取組とで、毎日右往左往しているが、私には四つの宝がある。その宝を糧に精進していきたいと思う。